



## AIDS(Acquired Immune Deficiency Syndrom) 1

2015.12

**AIDS の歴史** : **1981 年** : 最初の臨床例は UCLA からのカリニ肺炎のレポート。 いずれもホモの男 & Injection Drug User でニューヨーク居住歴があった（年内に 120 名死亡）。 **1982 年** : AIDS（後天性免疫不全症候群）と命名、5 大陸で存在を確認。

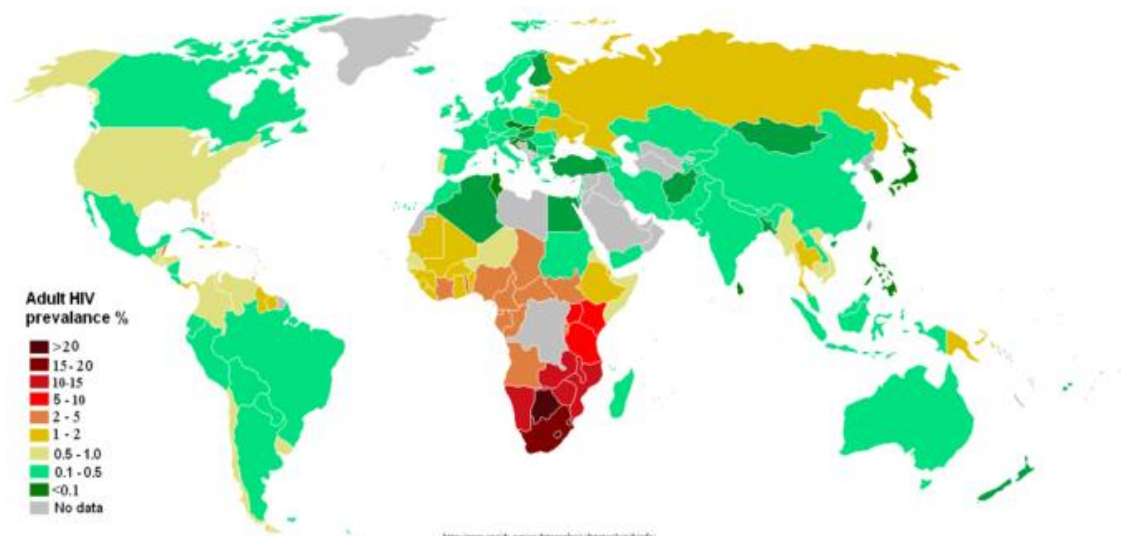
**1983 年** : Robert Gallo(NIH)が HIV ウイルスを発見（ほぼ同時にパスツール研の Luc Montagnier も発見、1985）と発表される。 しかし 1989 年シカゴ・トリビューンはギャロがモンタニエから送られた HIV のサンプルを自分が発見したものとして発表した不正を報道。 NIH と United States Office of Research Integrity（後の ORI: 米国研究公正局）はホフマン・ラ・ロッシュ社の協力を得てギャロの HIV はモンタニエから送られたものであると結論（They concluded that the virus used in Gallo's lab had come from Montagnier's lab）。 ギャロ（現メリーランド大ボルチモア校）とモンタニエ

（Nobel Prize Laureate, 2008）はその後も協力。（モンタニエの）HIV が AIDS を発症すること確認したのはギャロの功績だが無視される。 郡司篤晃（厚生省生物製剤課長、私の指導教官でした）は 1982 年知人（村上省三、女子医輸血部）を通じてエイズ感染の危険性を知り、1983 年 6 月にエイズ研究班を召集したが血友病の薬害 AIDS を防げず。（Food & Drug Administration の Frances Kelsey は 1 年以上製薬業界の圧力に耐え、49 カ国で発売のサリドマイドの催奇形性データを要求、認可せず。全米で 4000 例と予想されるサリドマイド禍を防ぎ FDA の権威を高めた。一方オーストラリアの産科医 William McBride はサリドマイドの催奇形を初めて報告、後にデータ捏造で解雇）。 **1985 年** 日本初の AIDS 感染例（薬害 AIDS）。

**1989 年** AIDS 予防法（記憶では、年齢性別のみ知事に報告）\*。

**診断法** : HIV-1, -2 に対する**抗体検査（スクリーニング）**と**NAT**

**（核酸増幅法）** 検査がある。 米国では唾液を使う自己検査用キットを FDA が認可（2012、輸入可能）。 現在輸血用血液は HB, HC, HTLV-1, HIV, ヒトパルボ B19, 梅毒を検査、ウィンドウ期間（抗体検出可能になるまでの期間）は HB,HC で 30 日程度、HIV では 10 日前後。現在 HB,HC は 1-10 万単位の輸血に 1 回。HIV は現在まで 4 例。



\* 感染症法 5 類、全数把握、年齢、性別、国籍を知事、特別区長に 7 日以内に届出。日本の罹患率 (morbidity) は 10/10 万人程度、HIV 感染率はその倍（2 万人）。 全世界で 3500 万人。